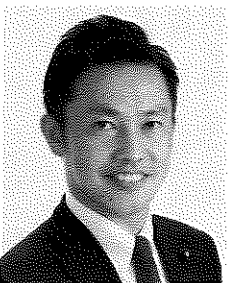


# 年頭の「挨拶」

衆議院議員

中谷 真一



明けましておめでとうでございます。本年もどうぞ宜しくお願い致します。また、森理事長始め借行社の先輩方には平素からご厚情を賜り厚く感謝致します。

さて、日本を取り巻く安全保障環境は風雲急を告げています。まさに「米中冷戦」が始まったと言えます。米中関係が激化しつつあり、私が「冷戦」と表現しているのは米ソ冷戦期にその構図が類似しているからです。

まず米ソ冷戦期は、米ソの経済圏は全く別でした。西側諸国、東側諸国と表現され資本主義経済国と共産主義経済国に別れ、その力の差も非常に大きなものであり、西側諸国が圧倒していました。その中で軍拡競争が行われました。これにより軍事に莫大な予算を使われ、ソ連は経済的に破綻し崩壊に至り経済的に米国が勝利したのであります。

現在、トランプ大統領は、中国からの輸入品に対し関税の引き上げを行っております。習近平国家主席もそれに

呼応し、中国に入る米製品に対し報復関税を行っている。これにより両国の経済的結び付きは弱くなっていくと思われまます。さらに、今後両国による他国に対しての囲い込みが始まるでしょう。まさにかつての西、東の経済圏を作ることになるのではないのでしょうか。またトランプ大統領はINFを脱退し中核戦力の強化を宣言した。これにより軍拡競争が起ころことは必然であり、かつて冷戦期に行われたものと同じでしょう。

この際、日本が取るべき進路はどうあるべきか。かつて、西側諸国がとつた行動をすべきと考えます。米国との経済的結び付きを強くし、いわゆる西側と言われた資本主義経済圏を強固にした。さらに、NATOを作り集団安全保障体制を構築し、米国を引っ張り込んだのです。

日本は米国との経済的結び付きを強化し、さらにTPPなどにより経済圏を作ることを主導すべきです。さらに東アジアにNATOのような多国間同盟を作ることを主導すべきです。オーストラリア、ASEAN、インドなど、ロシアも例外ではなく、さらに米国を引き込む。平和安全法制により整備した集団的自衛権による協力体制を築き、中国包囲網を形成し牽制することにも必要ではないでしょうか。

今後の5年間で日本の安全保障にとって非常に重要です。安全保障に深く携わったものとして国益を追求して参ります。本年もご指導ご鞭撻賜りますよう宜しくお願い致します。